



The letter of
Shinseisakuza

kunlapopolo・・・人々の中で人々と共に・・・



新制作座だより

vol.15

2018 Early SPRING

<http://www.shinseisakuza.com>



2018年 元旦「新春の集い」国際色豊かな集いとなりました

「立春のご挨拶」

1 月1日 新制作座恒例の新年会が開かれました。

エリトリアからの留学生、ブータンからの留学生、中国からの留学生と劇団の研修生で星椋国際八王子学習センターの専攻科生の植村美貴さんのお父様がイタリアから加わり、今年は国際色豊かな年明けとなりました。

星椋グループの「世界こども財団」が引き受けているエリトリア、ブータンの留学生は陸上の選手で高尾滞在中(12月29日から1月4日)も某大学のグラウンドを借りて練習に励んでいました。日本のおせち料理のうち、黒豆、栗きんとん、伊達巻など甘い味のは、とても気に入った様子でした。

劇団員一同も留学生も全員が新年の抱負を語り、立春に向け良いスタートの日となりました。3年は故国へ帰らず、日本で必死に練習をしますと語ったエリトリアの青年の一途な思いには、頭が下がりました。

今年の春節は2月16日。遅い旧正月となります。皆様の弥栄とご活躍をお祈り申し上げます。

(記・真山蘭里)

「泥かぶら」

学校と劇団が共生する

日本初(世界初?)のキャンパス

— 1月8日 星槎国際八王子10周年記念公演 —

成 人の日に八王子いちようホールにて『泥かぶら』公演開催。

人々との理解や繋がりを大切に育ててきた星槎に学んで、私たちがもあらゆる所にあらゆるツールを駆使して全員で駆け回り話をしかけました。反応が早かったのはインターネット。すぐに申し込みが相次ぎ、最後は当日券売場。「何でお知りになりましたか?」という問いに、ポスターでチラシ



「泥かぶら」八王子公演



八王子「いちようホール」のロビーにて

で、という方が多かったです。中には「46年前ブラジルで見ました。泥かぶらを愛しています」という方もいらっしやいました。60余年上演し続けている歴史の重みと喜びを感じました。

「今や、北条氏照祭りは星槎なしでは考えられません」とおっしゃる人もありました。

星槎の三つの約束「人を認める・人を排除しない・仲間を作る」と、新制作座のSの文字に刻まれたクンラ・ポポロ(人々の中で

人々と共に)が見事にハーモニーしていました。

最も大切な舞台の上では、若手俳優の登龍門の役を、星槎国際八王子の3年生が演じ、2人は裏を支えました。このことは、劇団の現在と未来に力強く明るい光が射しているように感じます。

これからも日本中だけでなく世界の中で、仲間を作り、人々と共にあることを目指して、星槎と新制作座は共に歩み続けることでしょう。(記 江崎はんな)

「ドラマティックリーディング」

初めての山口公演

— 2017年10月27日

山口県熊毛南高校公演 —

秋 も深まる頃、14日間の長旅公演の幕が上がりました。

初日は山口県熊毛郡にある熊毛南高校での朗読劇でした。営業の電話かけで山口県の高校全部に連絡しましたが、勉強に力を入れている学校が多く、芸術鑑賞を行っている所を探すのに一苦労しました。そんな中、勉強も大事だけれど芸術も大切にしたいとお話をしてくださった学校が熊毛南

高校の教頭先生でした。勉強に力を入れている山口県は芸術鑑賞に補助金が出ないのですが、朗読劇という素晴らしいものがあるなら、ぜひ子ども達にプロの語りというものを見せてあげたい!と熱く語った先生に心を打たれ実現しました。

学校に伺うと、すれ違う生徒から「こんにちわ!」と元気のいい挨拶の歓迎を受けました。体育会系の男子生徒はもちろん、おとなしそうな女子生徒も気持ちのいい挨拶をしてくれて私たちに活力を与えてくれました。

劇中は静かにしなきゃと咳やくしゃみを我慢しながら見ている生徒が多く、感動しました。

終演後の校長先生との会話で「僕は卓球しかして来なかったけど、この作品はものすごくいい!朗読劇にしてよかったよ!次は演劇で観たいな」と満面の笑みをいただきました。

担当は何回やっても緊張しますが、あの笑顔を見ると辞められないな...もっと頑張ろうと駆へ向かう途中、西陽を受けて黄金に輝くスキの絨毯に誓った公演でした。

(記・福島里佳)

「泥かぶら」

「泥かぶら」と九州公演

— 2017年10月30日～11月2日

東福岡高校、筑陽学園、星槎国際福岡公演 —

九州

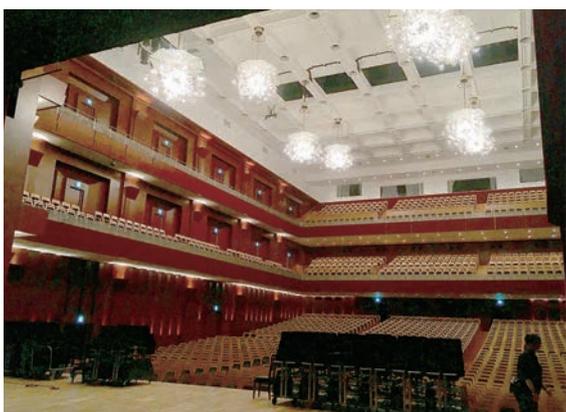
州・・・ことに福岡は、愛知県一宮市で初演の幕を開けた「泥かぶら」が、東海地方の紡績工場を軒並み公演した後、昭和29年、大道具を貨物車に積み40時間をかけ到着し、数々のエピソードを残した街です。

生前美保先生が度々目に浮かぶように話してくださいました。2週間の公演が決まった初めての福岡で、鳥の水炊きをご馳走になった公演前夜、主催の新聞社の



東福岡高校の先生方と

方が告白したのは、明日の1回のみで、計画が全て崩れてしまったとのこと。申し訳ないと頭を下げられ迎えた初日の客席はガラガラで、お客たちが休憩中「こげんよか芝居をなんでんこがんしか集められんかったとか〜!」と、声を上げ急遽カンパを集め楽屋に届けてくれたこと、終演後美保先生が泥かぶらの姿のまま、初めての九州で明日からの舞台もなく、帰る旅費もないことなどス



アクロス福岡 キャパは1800!!

ピーチすると、外灯もまばらな砂利道を「明日そつちで観んね、よかと〜涙ん出たとよ!」と、おじさんもおばさんも若者も、知る人を訪ね、すぐに仲間を集め、その後奇跡の半年間無休の九州巡演を行い、劇団初のお稽古場を東京井荻に建てる事が出来ました。

2017年秋の東福岡高校・星槎国際福岡・筑陽学園の公演を終えて私はこのエピソードを思い出していました。時代が変わっても九州は、情けが深く威張らない正直な人々の住む街。負けそうになり歯をくいしばる人々を、よかよか〜と応援する街。

今秋の九州公演(10月下旬～11月中旬)、只今、申し込み受け付け中です。(記・博多っ子小津和知穂)

「泥かぶら」

秋深まる山陰路故郷

— 2017年11月4日～6日

島根県川本町、美郷町 —

『泥かぶら』

の主演を務める福島理佳さんの故郷、島根県邑智郡美郷町と隣町川本町で公演を行いました。

どちらの公演も心温まる公演



川本町の村の重たちと老爺

になりました。殊に彼女が育った美郷町では入場券は早々にソールドアウト。里佳さんのお父さんお母さんは元より町長さん始め役場の担当者の方々、多くの町民の方たちが心待ちにして居てくださったのがよく分かりました。上演中は泥かぶらに、と言うより里佳さんに対する応援!

温かな空気が流れる中で好い舞台になりました。カーテンコールでは町長さんより里佳さんへの「ふるさと大使任命委託式」も行われ、町民の方々に披露されました。

この公演を通して故郷の皆さまから寄せられた心をしっかりと受け止め、又一つ成長させていだいた彼女は一層の勉強を重ね

て、これからの公演の中で今なお様々な想いを抱いて日々苦闘している若者たち、苦しみの多い大人の方々に舞台の上からお返しして行く事と思います。

故郷とは本当に好いものです。

(記・山形久人)

— 観客の声

美郷町教育委員会

岩谷知広さんより

「泥かぶら」公演について

実は、福島里佳さんのお父さんとは、個人的に20年近くお付き合いさせてもらっていて、里佳さんも子どもの頃からよく知っています



美郷町の町長さん、そしてお集まりの皆さまと

た。ですから、2年前、初めてお話をいただいた時、福島里佳さんが東京で女優、しかも主演女優になっていると聞いて、大変驚きました。諸般の事情で、公演までには2年という歳月が経ってしまいました。だが、今回実現することができて、大変喜んでおります。

しかも、当日はお客様が満員。町のホールは数年前に新築し、これまでも落語等多くの催しを行ってきましたが、今回が初の満員となりました。これだけの人数が席を埋める事などこれからも何度あるのかどうか。お客様もあたたかい雰囲気で大変良い催しとなりました。

次の日は町内の小中学生約

300人を対象にして、公演

をしていただきました。前日にお願いで、公演終了後、劇団員の方々に、特別に行っていたいただき

ました。涙をぬぐうしぐさがあ



ふるさと、美郷町

こちらで見られ、本当に感動的な公演となりました。

『泥かぶら』という演劇を初めて見させていただきましたが、もつともすぐれていると感じたのは、美しい心をもつ事の大切さが大変わかりやすく表現されている点です。

誰でも美しくなれる方法はたったの3つ。3つに集約されている事がストーリーをわかりやすくさせ、感情移入を起こしやすくしていると思います。

自分の顔を恥じないこと
どんな時にもにっこりと笑うこと
人の身になって思うこと

人生で大切な事が、全てこの中にあります。人はこの3つのきれいな方法を守る事で、自分



「泥かぶら」を演じる福島里佳

けでなく、人の気持ちも変えることができることを、この作品は教えてくれます。一般の方だけでなく、子ども達にもきつと心に響くものがあつたと思います。

優れた脚本をベースに俳優皆さんの演技力も素晴らしく、なにより、ピンマイクなしでやっておられたあたり、プロの俳優の凄味を感じました。

演劇を生で観賞でき、幸せな時間を過ごさせていただきました。本当にありがとうございます。

小さな町ですので、このような本格的な演劇をお呼びするのはなかなか大変なのですが、近い将来、再び公演していただけるようがんばりたいと思います。

新制作座の皆さまの、今後の益々のご活躍をお祈りいたします。またお会いできることを楽しみにしております。

— 島根県美郷町公演 —

「泥かぶら」役

福島里佳から一言で挨拶

地元の皆さんの愛情をこんなに受けていたとは思っても寄らず、私は幸せ者だと感じました。これからも皆様の愛情を忘れず、勉強いたします。

「ドラマティックリーディング」

小さな滝のある村で

— 2017年11月13日

福島県玉川村公演 —

玉 川村教育委員会主催で、立の2つの中学校合わせて210人の生徒さんが『泥かぶら』と『八郎』のドラマティックリーディングを観ました。

玉川村は福島空港の近くで自然の豊かな所でした。会場の下見に行った時、少し時間があったので、近くの乙字ヶ滝という所に行つて来ました。落差はあまりない小さな滝でしたが幅が広く、ナイアガラの縮小版の感がありました。桜の頃はきれいだろうなと

思い少し歩くと奥の細道で立ち寄った芭蕉と曾良の像と碑がありました。

公演の日、生徒さんたちは真剣に喰い入るように観てくれました。その顔々はこの美しい自然の中で、心豊かに育っている様に感じました。教育長さんはじめ教育委員会の先生方も喜こんでくださいました。いつの日か、演劇『泥かぶら』を村中の人に届けたいと思いました。

(記・木村幸子)

— 観客の声

元劇団員

西谷克彦さんより

ドラマティックリーディング
2017年11月8日
星槎国際広島公演

広島で、高校生の皆さんと一緒にリーディング『八郎』と『泥かぶら』の二本立てのパフォーマンスを観せていただきました。このリーディングは講談や落語などの話芸、あるいは一人芝居のジャンルと類似するものですね。舞台空間には大道具や小道具はもちろん、照明も衣裳も無い素舞台で、有る

のはスライドと音響効果とBGMのみ。その中で発声と表情、身振り手振りですべてを表現しようという話芸の難しき、面白さ。

高校生諸君も感じ入っている様子でした。おらかない声、無駄のない動き、よくここまで磨き上げたものと感じました。蘭里さんの『八郎』は好演。ただ細かいことですがハンドモーシヨンはもう少しオーバーでも良かったかなと感じました。

劇『泥かぶら』を絵本という媒体で表現するという画期的なこと。とてもワクワクして幕開きを迎えました。成程々と唸りながら上杉綾さんの口演に引き込まれてゆきました。大きな瞳はよく表



「泥かぶら」語り手：上杉 綾

情を出し、声も魅力的でした。随分と勉強されましたね。あの劇をまあよくここまで全体を練り上げたものと感服いたしました。構成、演出も皆さんで侃々諤々工夫されたことでしょうか。ただ欲を云わせてもらえば…：こずえが泥かぶらの髪に櫛を入れる名場面や、危険な岩場から薬草を採ってくるころが割愛されていること。これが何とも惜しい。泥かぶらの葛藤や勇氣ある頑張り、成長などの積み重ねが説得性のある共感として盛り上がっていく訳ですから…：欲ばりついでにもう一つ。演者が、前にある舞台上に縛られている気がしてなりません。この台を取り払って、半径数メートルの空間を自由に延

情を出し、声も魅力的でした。随分と勉強されましたね。あの劇をまあよくここまで全体を練り上げたものと感服いたしました。構成、演出も皆さんで侃々諤々工夫されたことでしょうか。ただ欲を云わせてもらえば…：こずえが泥かぶらの髪に櫛を入れる名場面や、危険な岩場から薬草を採ってくるころが割愛されていること。これが何とも惜しい。泥かぶらの葛藤や勇氣ある頑張り、成長などの積み重ねが説得性のある共感として盛り上がっていく訳ですから…：欲ばりついでにもう一つ。演者が、前にある舞台上に縛られている気がしてなりません。この台を取り払って、半径数メートルの空間を自由に延



「拍手子を、おはやしを、一緒に！」ソーラン節

びやかに歩く、走る、跳ぶ、転ぶ、泣く、怒る、笑う、歌う、踊る——こう
いった身体的表現を所狭しと躍動
して欲しいと思うのです。観客は
リスナーではなく、皆さんは声優
ではなく俳優なのですから…。

「泥かぶら」

100分版の壁

—2017年11月21日 福井県
敦賀気比高等学校公演—

敦

賀気比高校の公演は挑戦
だった。

公演前のお稽古でどうしたら時
間内に終われるかを劇団全体で考
えて、あーでもない、こーでもな
い、と思索して挑みました。

一番大変なのは主役の泥かぶ
ら。1幕から2幕がいつもなら10
分のところを、3分間で着替える
という早技をしなければいけな
い。タイムを計り、試行錯誤を重
ね、これなら大丈夫、というところ
まで繰り返し準備をしました。

さて、当日敦賀港を背に会場の
「市民文化センター」に入り予定
通り準備が進みました。この時
のわらべ役の子は3名全員男の

子で、そのうちの1人は女の子に
変身しました。本当によく引き
受けてもらえたと思います。

そしてついに開演、いつもより
テンポよく進行し、エピソード！
時間があと2、3分でした。刻一
刻と過ぎる中、いよいよ最後のと
ころあと1分と…ぎりぎりのと
ころで終演になりました。しっか
り準備をした稽古の成果が出て、
無事終わることができました。

今回のことと思うことは、1人
1人が意識してみんなで目標に
向って挑んだことが大事なんだと
いうことを認識した公演でした。

(記・亀川忠助)

「泥かぶら」

1番好き女性、 泥かぶら！

—2017年11月22日
愛知県刈谷市公演—

愛

知県刈谷市の刈谷市総合文
化センターアイリスにて、

地元の企業「ビレッジ開発」主催
の周年行事で『泥かぶら』を上演
させて頂きました！

下村社長さんの『泥かぶら』へ
の熱い想いを感じながら開幕。



ビレッジ開発の下村様、社員の方々と一緒に

「社員を幸せに出来ない会社
は、お客様の役に立つ良い仕事も
出来ない！ 1番好き女性、
泥かぶら！」

あたたかな心情と信念に感動
しました。ビレッジ開発様の益々
のお栄とご発展を心よりお祈り
致します。(記・小津和知穂)

「ドラマティックリーディング」

千秋楽を飾る、客席 いっぱい笑顔の花束

—2017年12月19日
関西創価学園公演—

12月12日の千秋楽を終え、
2017年演劇『泥かぶら』

「八郎」「泥かぶら」はまだ燃え尽
きる事無く、いざ再びの大阪
へ！一昨年の大阪公演から今年
のアンコール公演に続き、足が遠
退かぬうちの来訪で嬉しい限り
です。

広い講堂に張り出し舞台を作
り、キチツと姿勢を正して並んだ
目一杯の生徒さんを前にして、そ
の期待に応えたいと気合いが入
ります。最初は礼儀正しい面持
ちだった客席の生徒さんですが、
いつしか前のめりに、舞台を食
入るようにつめる目が印象的
でした。



関西 創価学園の公演を終えて

更に、朗読劇を終えて、劇団からの『ソーラン節』の披露と歌の贈り物の際の、積極的なソーラン節の掛け声参加にも驚きました。が、それ以上に心動かされたのは、劇団歌を歌っている間中、客席中から、屈託の無い笑顔で私たちに手を振る生徒さんの姿が絶えなかったことです。

今度は演劇『泥かぶら』でより深くそのメッセージを届けたい、と願います。その契機になるような朗読の舞台を、2018年も精魂込めて作り上げていこうと思います。(記：上杉綾)

「イベント」

新制作座クリスマス

— 2017年12月23日 —

劇 団の創立者 眞山美保の父 眞山青果の小石川の家時代から続くクリスマスの集いは、劇団創立後も67年間どんな事があつた年でも大切にしてきた行事です。

子どもも大人もごちやごちや感満載!! 2歳から82歳までの60名で大賑わい。シェフの料理、持ち寄られる手作りケーキ! 良い



みんなで作って、おいしくいただいた餃子パーティ



2017年 クリスマスパーティ

子に届くサンタのプレゼント♡皆さまの変わらぬご友情に只々感謝!

なごみの の コラム

「愛犬“茶々”を偲んで」

(いきものがかり:江崎 はんな)

茶々は本当に眠るように逝った。ごはんが食べられなくなって3日目、そっと背中をなでると、毛が薄くなって、細くなった尻尾を小さく振った。そのまま眠ってしまったのかと思っていたら、もう起きてこなかったのだった。

一昨年(2016)の12月、お医者さんが言われた。「年は越せないかもしれないよ」と。それならと、



ありし日の茶々

薬用フードからおいしいごはんに切り変えた途端、茶々は俄然元気になった。病気で足が立たなくなっても、言いたいことがあると鳴き、部屋中を転がって動き回った。

小さな祭壇の上で横たわった小さな体の前でお通夜をした。その席に集まった人々の語る、茶々のあの日この日、こんなことあんなことが、なごやかに賑やかに続いた。それは人のお通夜と同じだった。茶々は犬であり、犬でなかった。仲間だった。同志だった。人が好きで、人に尽くし、愛された生涯だった。茶々からもらったものの大きさに、誰もが感謝と慈しみを感じていた。犬って素晴らしい。一途に人を愛する心に胸打たれない人はいない。茶々、天国のみんなによろしくね。こちらをもっともっと愛し合って暮らします。合掌!

「イベント」

餃子パーティ!!

— 1月23日 —

中 国大使館 文化部の友人の皆さんと、賑やかに粉まみ

れになって、皮から作る水餃子! とっても美味しかった!。とっておきの40年ものの老酒も開け(物持ちが良すぎです。笑)、懐かしい歌も飛び出して、家族の愉快な夜でした。

2018年 新制作座公演

● 演劇「泥かぶら」

- 4月 18日 星槎国際八王子・立川
～20日 新入生歓迎公演*
会場:星槎高尾ホール
- 5月 8日 新潟県五泉市公演
主催:五泉市教育委員会
- 9～11日 愛知県刈谷市公演
主催:刈谷市教育委員会
- 19日 東京都世田谷区
田園調布雙葉中学校 芸術鑑賞会
- 29・30日 茨城県守谷市公演
主催:守谷市教育委員会*
- 6月 6日 東京都あきる野市
東海大学付属菅生高等学校
中等部 芸術鑑賞会*
- 7月 13日 福井県福井市
啓新高等学校 芸術鑑賞会
- 10月 16・17日 群馬県みどり市公演
主催:みどり市教育委員会
- 22日～ 九州公演
11月 2日 熊本県八代市・熊本市・福岡市
- 5日間 新潟県燕市公演
主催:燕市教育委員会*

(*)印:日程調整中

ドラマティックリーディング号☆走る!

演劇「泥かぶら」は、4tトラックと俳優&スタッフ総勢18名で全国を公演しています。

ドラマティックリーディングはというと、機材と語り手とスタッフ6～10名。徐々に公演回数も増えて、ご好評いただいています。ますます頑張ろうとワゴン車を導入し、「ドラマティックリーディング号」と名付け、全国を旅する事になりました。

☆お気軽にお問い合わせください。お待ちしております!



—— * 同封の郵便振替の用紙について * ——

賛助会費のお願い

2018年は、熊本地震・東日本大震災の復興支援公演を計画しております。

皆様の真心とご友情を舞台芸術に託し届けて参ります。ご理解とご協力を、引き続きお願い申し上げます。

劇団 新制作座 衣装部 [朱鷺 -toki-]

2018年度 成人式

1月に行われた、星槎国際八王子10周年記念同窓会・成人式にて、新制作座が舞台設営を、振袖着付けを「朱鷺-toki-」が担当いたしました。新成人のみなさま、まことにおめでとうございます。

【振袖お貸し出しのお知らせ】

劇団新制作座では、国内外の公演活動で舞台衣装として活躍した「きもの」を、お貸し出ししています。創立者で劇作家・演出家の眞山美保が選んだ日本の伝統芸術「きもの」の美しさをぜひ体験していただきたく思います。

定期的に内覧会を行っております。お気軽にお問い合わせください。(参加費:無料)

ブログ「和装文化の朱鷺-toki-」内の「振袖カタログ」に振袖写真をアップしています。

「和装文化の朱鷺」で検索してご覧ください。

<http://ameblo.jp/wasoubunnkanotoki/>



この春、卒業を迎える方へ。きものと袴で卒業式を迎えてみませんか。ご相談承っております。

お申込お問合せ:NPO法人 劇団新制作座まで